

史料紹介

田中首相・スハルト大統領会谈録——一九七四年一月一五日

服部 龍二

田中角栄首相は一九七四年一月に東南アジア諸国を歴訪した。日程は次の通りである。

一月七日（月）羽田空港発、マニラ空港着（マルコス大統領出迎え）、

マルコス主催晩餐会

八日（火）マルコスと朝食、会谈、マルコスと昼食、アジア開

発銀行訪問、内外記者会見、在留邦人と懇談

九日（水）空港発（マルコス見送り）、タイのドン・ムアン空港

着（サンヤー首相出迎え）、王宮着記帳、戦勝記念塔に献花、

サンヤー表敬、サンヤー主催晩餐会

一〇日（木）サンヤーと会谈、学生代表と面談（首相官邸）、内外

記者会見、在留邦人と懇談

一一日（金）空港発（サンヤー見送り）、シンガポール空港着（リー・

クアンユー首相出迎え）、リーと会谈、リー主催晩餐会

一二日（土）内外記者会見、空港発（リー見送り）、クアラルンプー

ル空港着（ラザク首相出迎え）、ラザク主催晩餐会

一三日（日）ゴルフ、在留邦人と懇談

一四日（月）ナショナル・モニュメントに献花、ラザクと会谈、

内外記者会見、インドネシアのハリム空港着（スハルト大

統領出迎え）

一五日（火）スハルトと会谈、ハメンク・プオノ副大統領表敬、

スハルト主催晩餐会

一六日（水）内外記者会見、同行記者団と懇談

一七日（木）空港発（スハルト見送り）、羽田空港着

各訪問先では共同発表ないし共同新聞発表を行った。⁽¹⁾

田中の東南アジア歴訪は、タイやインドネシアにおける反日暴動で知られている。⁽²⁾ 本稿では、外務省外交史料館所蔵「田中総理インドネシア訪問」二〇一〇—二六から、「田中総理・スハルト大統領会谈録」を紹介したい。原文は鉛筆の横書きであり、清書は確認できていない。

1. 田中総理・スハルト大統領会谈録

日時 1月15日午前10時～12時30分

場所 ムルデカ宮殿

出席者 日本側

田中総理大臣、須之部駐インドネシア大使、鶴見外務審議官、

高島アジア局長、木内総理秘書官、増井事務官(通訳)

インドネシア側

スハルト大統領、アダム・マリク外務大臣、スダルモノ國務

大臣・官房長官、ユスフ・ラムリ駐日大使、アリフィン外務

省経済局長、ジャデインングラット外務省政務局長、ムナフ

在京大使館担当官(通訳)

大統領 田中総理が御多忙の中をイ政府の招待に応じ当国を御訪問

されたことに感謝する。総理は、総理就任以来、米、中、欧、ソに続き東南アジア諸国を歴訪されたところ、これら諸国訪問を通じて得られた総理の国際情勢に関する見解をおうかがいできれば有難い。昨年来世界を襲った食料・石油危機は、世界経済に多大の困難をもたらし、未だ落着するに至っていない。世界の中でも特に日本に対し各種の影響を及ぼしているのを承知しているが、開発途上国も深刻な影響を受けている。

総理 自分が組閣後1年半になる。この間、まず第一に米国を訪

問した。米国は、基本的には世界が緊張緩和の方向に向かっているものの、国際情勢は新聞紙面でみる程簡単ではなく、未だ戦争の危機は残されているとの認識をもっているようである。欧州は、緊張緩和に向かっているが、米軍が30万人も駐留しており、またNATOもあって、内部の団結を強化しており、平和な状態にある。アジアは、欧州に較べより困難な状況にある。地域の広大さに加え、人口も国も多い。さらに宗教上の困難もある。アジアの安定なくして、世界の平和はない。日本は、憲法上の制約があり再軍備はできない。また、軍事大国となる意思も全くない。軍事的に強大となるためには、憲法の改正をしなければならない。こう言うことを行なえば自民党は、選挙に勝てない。選挙で負ければ理想を達成することはできない。従って、日米安保条約を中心として最少限の国防力を維持しているのが現状である。訪米に際しては、日本が中・ソと云う隣国を有するためアジアの平和維持のために軍事的には日米安保条約を守り、米軍に基地を提供し、兵器の修理を行っている。米国は、軍事的にアジアにおける枠組を変えてはならない。しかし、日本は、可能なかぎり、経済・技術面における協力を通じ東南アジアの安定に寄与したいと考えている旨述べておいた。

自分は、日米関係を再確認するために訪米し、完全な合意に達した。

南北ヴィエトナム間では、平和の方向に向つてはいるが、同地域の完全な平和達成までには、今後相当の長い時間がかかる。

自分のみるところでは、今後米国は、トラブルもあるのでアジアより陸上兵力を序々に撤退させるにしても、海軍、空軍、ミサイル部隊は、基地が統合されても、その機能は低下させないものと思う。日本国内に相当の反対はあるが、政府は、空母ミッドウェーに横須賀基地を提供している。

次いで、第2に、訪中により日中国交正常化を行った。明治百年来、中国問題は、最大の政治問題である。日中間には、3千年の交流があり、また互いに隣国である。国内的には、中国問題は、常に半分の国民的コンセンサスは得られる。ソ連については10%のコンセンサスを得るのも困難である。従つて、北京に行つて、国交正常化をやりましょう、しかし、原則は、あくまで、内政不干渉を守る、日本の軍事力は中国の脅威とならない、中国は核を持っているからわが国の脅威となつてはならない、対北鮮援助は、わが国を刺激するから困る、日本人は、脅威が日本に近づくとも共産党を除いて團結する、火事や大水が起ると共産党を除き日本人は、一所懸命協力するから覚えておいて欲しい、韓国は歴史的にかつてわが国の一部であつた国だから、対韓援助は続ける、台湾は、歴史的にも、地理的にも深い関係にあり、年間20億ドルの

貿易がある、現実問題として、実務協定による関係を続ける外ない、台湾から米が引いて別のものが入つてこないと言ふ保障はない、そこを中国は、高度の政治的判断をすべきである。香港や台湾と言ふ自由圏との門戸は必要だと思ふ。中国は広大で、37億の全人類の4分の1が中国人である、中国はまず統一問題と、7千キロの中・ソ国境があるから、アジアの近隣に手を出さないで欲しい、（この点につき中国は、北越の指導者と友情があつたのでこれに応えたと云ふことを理解して欲しいと云つていた）自分は、ここで正常化するため単身で何も持たないで来たのだから、そのまま帰つても良い、しかし、ここで正常化することの長期的メリットを考へれば正常化するほかないと思つている、等を指摘した。

他方、英、仏、独に対しては、中東等で競争してトラブルを起すことは良くない、米国が考へているような（石油）消費国と生産国との対立と云ふことではなく、双方が入つた話し合いの場を作ることが必要である、またアフリカにおける対日経済協力プロジェクトを共同で、かつ現地の理解を得られる形で実施したい、濃縮ウラン、クリーンエネルギー開発を進め、環境保全、と公害排除の協力を提案した。

南北問題の解決は重要である。バイラテラルな関係では摩擦が伴うので、1945年当時、世銀、第2世銀、IMFを設置したように、アジア開発銀行やアフリカ開発銀行のよう

な多角的な国際機関を拡大、強化する必要がある。

次いで訪ソ問題については、ソ連に対する国民的コンセンサスは10%もない状況にある。モスクワと東京は遠いがその間にシベリアがある。チュメニ、ヤクトト等石油、石炭、天然ガス、木材等、8つのプロジェクトがある。これらすべての開発のためには40〜50億ドルを要する。両国は政治体制は異なるが、相互利益のために協力しうる。これら開発は、純経済的な問題だから条件はない。米・西独も参加する場合、かけ引きに時間がかかろう。ソ連に対しては、日・ソ間で窓口を一本とするが、他国の参加を排除しない旨述べておいた。また、シベリアには多くの資源があるが、よそに持って行かなければ価値のないものである。この実施のためには、日・ソ間で完全な合意が必要である。わが国としても中国の感情も考慮に入れなければならない。北方四島問題については、日本の60倍の面積を有するソ連がこだわるべきでない。今すぐとは云わないが、本問題の解決なくして日・ソ間の眞の友好は確立しない。また、軍事的に日本を刺激すべきではないと北京で云ったことと同じことを話しておいた。

日本は、非核三原則を堅持しており、核兵器を作る経済・技術力はあるが、絶対を作るつもりはない旨述べ、ソ連首脳も日本首脳の腹のうちが良く判ったと思う。

結論的に云うと、まず、中・ソ関係はなかなか問題だと思

う。7千キロもある河の眞中を国境としているため、常に流れが変ることから生ずる国境問題は、中東問題に匹敵する難しきがある。ソ連の兵力の3分の2は欧州にあり、極東には3分の1しかない。日本製のカメラが常時地球上を廻っており、中国、ソ連のミサイルがどちらを向いているかを承知しているが、そう云う戦争では問題は解決しないと云っておいた。

次に、米・ソ関係については、段々話し合いをするようになっていく。しかし、眞の話し合いができるようになったのではない。米・中は、完全に正常化できた訳ではない。中国は米国の経済力に注目すべきだと考えており、また、米国が中国の敵ではないことも良く理解した。台湾問題に関連し、米国には領土的野心はないことも知っている。従って、中国は、台湾を米に委託しておくことが一番利口であると考えているものと思う。現に、1年前日米安保に対し中国はとやかく云わないとの態度であったものが、1週間前^{最近}にはこれを必要であると認めるとのニュアンスに変ってきている。

以上が、自分の各国歴訪の概要である。これらは、いずれもデリケートな話なので、自分の発言はこの場限りとし秘密にして欲しい。

大統領 極めて率直なお話しをおうかがいできて大変参考となりました。お礼を申し上げます。大国間の接近の動きは歓迎されるべき

であるが、アジアの情勢は、欧州等其他の地域に較べより困難である。域内をさらに分けて考える必要がある。西アジアには、インド・パキスタン・バングラデシュの問題がある。東アジアには中・ソの問題がある。東南アジアにもヴェトナム問題があり対立がみられる。インドネシアは、東南アジア地域の安定を確保するためASEANの結束の強化を図りたいと考えている。南太平洋では、ニュージーランド、フィジー等とともにオーストラリアが安定勢力として存在する。極東においては日本が一つの力として存在する。従って、3角形の角にそれぞれ存在する日本、インドネシア、およびオーストラリアの3国が協力関係を強化することはアジア・太平洋地域の安定に寄与すると考える。中国問題は、インドネシアにとって社会・政治的に大きな問題である。かつて中国はすべての国との友好、内政不干渉、相互尊重等を旗印にインドネシアに対する接近を行なったが、中国は同時に民族解放斗争^{（ムー）}に対する支援を行なうとの政策をとり、1965年には、インドネシア共産党に対する支援を強化し、インドネシアの内政に明らかに関与した。民族解放斗争^{（ムー）}のためなら内政干渉をする^{（ムー）}と云うこととなる。中国が大きな力であることは十分承知している。それだけにインドネシアとしては、外部勢力が革命を輸出、支援することは許さないと立場をとっている。

次いで、日本の対東南アジア経済・技術協力につき幾つか申し上げたい。

これまで第一次5カ年計画中国本より寄せられた協力に心から感謝の意を表明する。近く、第二次5カ年計画の初年度に入る。同計画は、国民の繁栄を目的としているが、外国援助無くしては目的を達成し得ないと考えている。1974年度のIGGIベース援助所要額8・5ドルのうち、日本からは、世銀、アジア開発銀行よりの1・5億ドルを除く残りの3分の1を援助して頂きたく、第二次5カ年計画の成功を期したい。

同計画の下で、政府は、農業の振興による農民の所得増大をはかりたいと考えている。この一環として、天然ガスを利用する肥料工場を1975年末までに完成させる予定であるが、それまでに1974/75年分として50万トンの肥料が不足しており、その大半を日本からの輸入に頼らなければならず、しかも74年末に到着しないと間に合わないのようらしくお願いしたい。

他方、ジャティバラ（チレボンの肥料工場の建設計画は、これまで1〜2年にわたり話し合いが行われてきたが、未だ具体化するに至っていない。本計画は、世銀ではなく、日本単独で実施して欲しい。本計画が完成すれば、対日輸入の必要はなくなり、日本の負擔も軽減し、その分だけ、他の輸入

需用国に対する振向け量を増大することが可能となろう。

LNG計画については現在特に問題はないが、早急を実施されれば、それだけ早く、日本を含む世界のエネルギー危機緩和に資することとなる。

アサハン計画については、日本側民間コンソーシアムとの間に一応の合意が成立している。本計画は、発電所、アルミ工場、港湾の建設にまたがる大きなもので、民間ベースの計画ではあるが、日本政府の日本側コンソーシアムに対する財政援助がないと実施が困難である趣であるので、日本政府の協力をお願いしたい。

イ政府および国民は、インドネシアの開発のためには、外資、特に日本の投資が必要であることを認識しているが、社会の一部に日本の経済進出に対する不満、反対の声が上っている。細かいことであるが、放置しておく影響が大きいので、事態を改善するために両国政府としても配慮しなければならぬ。不必要な問題の芽は早めにつみ取るに越したことはない。このため、ともに相互利益・尊重の原則の下に努力することとしたい。そう云う意味から、貴総理の訪イは時宜を得たものと考ええる。

これに関連して、民間投資活動上の問題点を提起したい。

インドネシアの外資政策上、外資側は投資企業で働くインドネシア職員の技能(Skill)向上に努める義務を負っている

が、日本側には、事業の成功のため、日本人職員がすべてを取りしきり、現地人の訓練・教育に余り熱心ではない場合もあるようである。ついては、日本政府および経団連において、かかる職業教育のため教育予備センターのようなものを作るのも一案である。働きながら教育を受ける機会を設けることとなる。

資本面では、合併事業のイ側持株比率が序々に増大し、最終的にはイ側51%、外資側49%となることが望ましいが、現実には、合併事業が稼働後、日本側の増資要求がなされ、イ側に増資能力がないため、イ側の持株比率が逆に低下する事例がでている。

さらに、合併パートナーの問題であるが、日本企業の多くが資本もSkillもある外来系インドネシア人と提携している事実は、日本企業がインドネシア人と余り協力したがっていないとの印象を与えている。

また、日本人は良く働くが地域住民との交際が少なく閉鎖的であるので、当国の文化、風俗・習慣を勉強し、かつ尊重して欲しい。

エネルギー問題に関連して、大型船のマラッカ海峡の航行は制限して行きたいところ、ロンボック海峡は水深も充分あるので、大型船はロンボック海峡を航行することが望ましい。ブルタミナの調査ではスマンカは石油ターミナルとしての立

地条件を備えている趣である。ロンボック島の基地は未調査であるが、スマンカは、バタム島に建設予定の1日30万バレルと10万バレルの2つの精製工場に輸送しやすい。この計画が実現すれば日本、インドネシア、中東諸国の良い協力プロジェクトとなる。勿論、その他諸国も参加しうが、御賛同を得られれば、さらに技術的側面につき検討を進めることとしたい。

海運問題については、船員の教育・訓練につき日本側の協力をお願いしたい。

ライス・エステートは大きな計画で、その実施には外資を必要とする。この計画は、米だけではなく、メイズ、大豆等豆類も植えれば、輸出品の生産も可能となろう。日本の民間が実施してくれることが望ましいと考えている。この関連でも、チレボンの肥料工場建設が必要である。

総

理 ASEANの自主的な協力関係の発展は望ましいと考えており、日本としては必要とあれば協力する用意がある。しかし、本件協力で日本側が積極的になると嫌われることとなるので、日本は、あくまでASEANの内政干渉は避けることを基本方針としつつ、ASEAN側の自主的動きとしての協力要請があれば、これに協力することとしたい。

IGGIの1974年度援助については、世銀、アジア開発銀行等国際機関拠出分1.5億分を除く7億ドルからさら

に食糧援助分を除いた額の3分の1を援助する用意がある。為替レートが1ドル280円、290円ないしは300円となるか判らないが、事務当局間で詰めさせている。事務レベルで詰まらなければ、貴大統領と自分の2人の間で決めることとしたい。

食糧生産に果すインドネシアの役割りに期待している。インドネシアの食糧増産については、単にインドネシアのみならず周辺諸国に対する援助にもなるような食糧基地構想が必要である。大豆、メイズ、その他豆類の増産、輸出も重要であると考ええる。しかし、これら一次産品は利益が薄く、大規模投資を商社のみに期待することは困難である。また、農業協力は、土地にかかわるものであるだけに地元住民とのトラブルを避けることが必要であり、このため、両国政府が入って眞の経済発展を確保することが望ましい。かかる観点から、自分は、本年の国会に経済協力相を設け、かつ国際協力事業団を設置する法案を提出することとしている。本件農業協力には、技術協力の外に現地人教育、文化交流等も行なう必要がある。さらに、ダム、灌漑、機械化、肥料の問題も起きてこよう。

肥料供給については、実績の最高額である30万トンの輸出を確保できるように努力したい。新しく肥料工場が完成するまでの2年間のことであるから、石油・ガスを追加的に供

給してもらえれば、肥料の不足分を出すよう最大限の努力をしたい。

(ここで、事務レベル会談の結果として総理にメモの差し入れがあり)

たった今、LNG問題につき560億円で合意があったところで結構である。

ジャティバラン肥料工場については、協力を行なう。

石油借款、LNG借款も決った以上、早急に実施することが必要であり、両国政府の協力により早期支出を図りたい。種々問題があれば自分に直接でも良いし、大使館経由でも良いからどしどし要求してきて欲しい。計画書は、例えば紙一枚でも良いから、国会で説明さえつくようにしてもらえれば、所要資金は貴大統領宛にすぐ送金しよう。(注:この点は、比喩的に発言された)

アサハン計画については、詳細な計画が提出されれば、港湾の建設を含めて財政的協力を行なうこととしたい。また、その段階で、専門家を現地に派遣することとしたい。

民間投資活動で問題があるのは十分承知している。学生運動についても、日本でも1945〜1955年の10年間、日・米間に摩擦があり、学生の反対運動がハガティー事件まで引き起した経験に照らしても十分理解している。しかし、現実には資本は必要であり、これに対する協力は惜しまない。

ついでには、インドネシア政府としても、援助の効用につき国内的理解を得るように努め、このため、計画を明らかにしてどれ程国民生活の向上に寄与しうるかにつき十分説明されることを期待する。

商社の活動、生活モラルについては、コードを作つて、是正を図りたい。商社だけにすべての活動を委ねることは適当でないので、国際協力事業団を通じ、文化・医療交流や、教育協力を図り、両国民が互に理解しうるように努めたい。

また、この関連で日本青年と東南アジアの青年が船の上で共同生活を行なう東南アジア青年の船計画も意味があるものと考えている。

外資との関係では、わが国は、長期安定的供給さえ受けられさえすれば良く、企業支配など全く意図していない。このため、日本側持株比率も51%でなければならぬと考えていない。自分の全く個人的考えで、内政干渉を行なうものは決してないが、日本はかつて、米国援助を受け、その見返り円を特別勘定に入れ、この資金で開発銀行を設置した。この米国援助資金は、1973年に全額償還したと云う経験がある。合弁企業の増資に際し、インドネシア側の出資比率を上げられないのであれば、公社でも設立して、イ側の持株が51%になるまで株を購入させるのも一案ではないかと思う。これはあくまで自分のささやかな経験をお話したにす

必ず内政干渉を意図するものでないので重ねてお断わりしておく。

ロンボックに石油精製コンビナートを作ることに賛成である。自分は、日本の外、米、英、西独、仏、蘭等消費国とアラブ産油国の双方が参加する形で実現するのが最も良いと思っている。特に産油国の参加が重要であり、わが方より内々アラブ諸国に対する意向打診を行ったところ、かれらも賛成のようである。中東とインドネシア間の石油輸送に当る海運会社は全額産油国資本でも良い。日本がイニシヤチブをとると石油欲しさからとみられるので、本計画につきアラブと親交のある貴大統領から提起してもらうのが最も良いアプローチであると考え。

船員の養成については、現地で訓練するか、日本で訓練するか検討したいが、基本的に困難な問題ではないので、帰国後運輸大臣とも相談して進めたい。

2 国間の関係は、経済関係が大きくなればなる程トラブルは多くなる。日・米間においても、1972年42億ドルの imbalance があり緊張したが、自分は米大統領に2回会い、3年間でこれを解消することを約し、現実に1年間で15億ドルにまで縮めることに成功し、問題を解決した。日米間では、今や十分な相互理解が成立しておることにかんがみ、日本とインドネシア両国間で相互理解ができない筈はない。

大統領 ロンボック、スマンカの中継基地計画は、インドネシア側

で進めることとしたい。

肥料の供給については、農民の生活に直接関連する重要問題につき是非全量供給しよう御努力願いたい。

総 理 先般ウィットラム豪首相とも、日、豪、インドネシア3国

提携問題につき意見を交換した。自分は、東経130度にあるこの3国の協力構想に賛成した。自分は、さらにこれに加え、同じ経度に位する加も加えようと述べておいた。

先般西オーストラリアの天然ガス開発問題につき、石油大臣（注、鉱物・エネルギー大臣のことか）がわが国による企業支配の懸念から反対していたので、自分は、日本側には企業支配の意図は全くなく、現地側資金が足りない場合には、日本で国債を発行し、資金調達を行なえるよう考えよう、また同州の鉄鉱石の95%が日本に安定供給されている事実を指摘したところ、先方もわが方の考え方を理解し、大筋において合意に達した。

日本は無資源国であるので、シベリア、カナダ、比、インドネシア、オーストラリア、ニュー・ジラランド、ブラジル、アルゼンチン等世界の資源保有国のすべてと友好関係の維持・強化を図らねばならない事情にあることを御理解願いたい。

2. 田中総理・スハルト大統領会谈録(晩さん会席上)

日時 1月15日夜8時〜9時30分

場所 於 イスタナ・ヌガラ

大統領 まづ、本日一部の暴徒が日本大使館敷地に乱入し日本の国旗を引きずり下し、持ち去ろうとしたが、幸い治安当局により国旗をとりもどすことができた。しかしながら、このほかり大使館の建物に投石し窓ガラスを破損する等の不祥事が発生したことに對し心から憤懣の意を表したい。早速外務大臣を對して大使館に赴かしめ陳謝せしめたが、改めて自分からお詫び申し上げる。

総理 自分も国内でハガテ^(マ)事件等多くの経験を有するので、特に気にしていない。

大統領 1965年の9・30事件後、政府は共産党がりを行った結果、A、B、Cの3級に分け処理した。A級は、未だにすなわいでおり、B級はブル島に流刑にしてあるが、C級は、すでに社会復帰せしめた。かれらの中の一部の者は最近の国内の動きに注目し、社会不安を創り出すべく動いたようであり、またジャカルタは大きく、9・30事件後も治安当局の目をかすめて潜ぶくしているかなりの大者^(マ)もいる。かれらが学生デモに便乗して一部の群衆を扇動した結果、暴動に発展した。

総理 日本では前回の選挙の結果、共産党が37議席を占めたため、同党は、勇気付けられ、これまで地下活動を行っていた党員が一齐に表面に出て、各企業内でも積極的に活動を始めるに至った。この結果、治安当局では党員の動静の把握^(マ)が容易となり、各企業内における党員のリスト・アップは完了している。

大統領 共産党は合法化した方がコントロールが容易な面もある。肥料問題に関連して、インドネシア産石油は肥料生産に適さないことを知っている。インドネシア政府は、すでにサウディアラビアおよびクウェイトの両国に對し石油の購入につきアプローチしているが両国政府首脳は、中東戦争、石油問題で多忙の趣にて未だ回答に接していない。しかしながら、肥料問題は、当国農民およびひいては国民の食料確保にかかわる重要問題であるので、20万トンに見合う中東石油の入手には全力を払うつもりである。ついては、来年度の肥料50万トンの安定供給につき総理の格別の配慮を得たい。

総理 大統領の努力が成功することを心から希望する。わが国としては、かかる方式による肥料の供給には協力を惜しまない。

大統領 石油中継基地を是非実現させたい。ロンボック島については未調査であるが、プルタミナが行ったスマンカに對する調査結果では、タンカー給水用の水が十分あり、バタム島、デユマイ、およびチラチャップにおける石油精製基地に對する輸

送面よりみても、スマンカ基地が立地条件上良いと考えている。本件を実現するために、先づ日・イ両国間で具体的計画を作成するためフイージビリティ調査を行なう必要がある。その後具体案にもとづきイ政府より中東産油国にも参加方呼びかけることとしたいが、本計画は中東産油国の利益にも合致することでもあり、成算は十分あると思っている。ついでには、プルタミナ当局と本件討議に当る日本側責任者を指名して頂きたく、追って総理より日本側代表について通報を頂き次第、自分（大統領）がプルタミナの然るべき責任者を指名することとしたい。

総理 本件構想は、石油消費国と生産国による初めての協力事業として極めて意義が大きく、大統領が本プロジェクトの現につき努力されることを希望する。帰国後直ちに経団連の石油部門でも取り上げさせることとしたいが、日本側代表としては両角前通産次官をあてることとなろう。いずれにせよ、早急に貴大統領に正式に連絡することとしたい。

なお、本件は、日・イ両国政府で具体案を作り上げる必要があるので、双方の協力関係を密にするとともに当面秘密にしておきたい。

大統領 了承した。

今朝の会議の席上提起もれの項目があったので、お話ししたい。インドネシアの群馬理論に関する当国の見解に支持を

与えて頂けないか。イ内水における日本漁船の安全操業は、別途取極により認めており、實際上日本漁民に影響するものとは思わない。

総理 問題は十分承知している。しかし、本件は、北方四島問題との関連でソ連との間に大きな問題がある。従って、本問題の法的論議はさし控え、友好的に対処することとしたい。

（大統領は、少し考える様子を示したが、一応納得した様子で、特に言葉を続けなかった）

総理 インドネシアは無数の可能性を有する国であり、3千の有人島のうち主要な島につき総合開発計画のブルー・プリントでも作り国民に提示すれば国民の受けとめ方は好ましいものがあると思う。日本側には、日本工営の久保田会長や橋本社長のように自分と旧知の間柄にある有能な人物が総合開発計画作成専門家として存在する。

従って、まづ航空写真さつ映から始めて地域別総合開発計画のブルー・プリントを作成することを考えられてはどうか。

（大統領は、興味深げに総理の話しに耳をかたむけていたが、大統領の総理勸演説（マ）の時間となったため、これ以上突っ込んだ話し合いはなされなかった）

注

- (1) 外務省情報文化局「田中総理の東南アジア訪問に関する海外論調付・総理の内外記者会見概要」一九七四年一月(田中総理東南アジア訪問関係(一九七四・1)A15116、外務省外交史料館所蔵)、外務省アジア局「田中総理大臣の東南アジア諸国訪問(昭和四九年一月七日～一七日)一九七四年三月(同前)。
- (2) 鈴木静夫「一九七〇年代前半の東南アジアにおける反日の論理」(矢野暢編『講座 東南アジア学 第一〇巻 東南アジアと日本』弘文堂、一九九一年)二二三―二四七頁、波多野澄雄・佐藤晋『現代日本の東南アジア政策 一九五〇―二〇〇五』(早稲田大学出版部、二〇〇七年)一六四―一六六頁、佐藤晋「田中東南アジア歴訪の意義——グローバル化とグローバリゼーション過程における東南アジアと日本」(『国際政経論集』第一五号、二〇〇九年)一〇九―一二四頁、同「グローバル化と日本外交——国際経済混乱と中国台頭の『ショック』の中で」(波多野澄雄編著『冷戦変容期の日本外交——「ひよわな大国」の危機と模索』ミネルヴァ書房、二〇一三年)四三頁、倉沢愛子『戦後日本—インドネシア関係史』(草思社、二〇一二年)二五三―二七〇頁、若月秀和『大國日本の政治指導 一九七二―一九八九』(吉川弘文館、二〇一二年)二九―三三頁。

(『日本外交文書』編纂委員)